

## 2-5. 普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会

取組み方針①：合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施する。

取組み方針②：若手の会、NB ミーティング両組織が活動を進めていく中での課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく。

### (1) 普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会の企画・開催

#### 1) 開催概要

本業務の進捗状況の報告や活動成果の検証等を行い、着実な合意形成活動に繋げていくために、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」を計2回開催した。

第1回では年間の取組み内容について意見をいただいた後、第2回で今年度の取組み結果を踏まえた課題、今後の意向醸成活動を行う上での留意点や取組み内容等について検討を行った。

## 2) 第1回実施概要及び議事要旨

### ○実施概要

①日 時 : 令和2年7月29日(水) 17:30~19:10

②会 場 : 宜野湾市役所別館3階第一会議室

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授【会長】  
(敬称略) 又吉 信一 宜野湾市軍用地等地主会 会長  
又吉 真由美 宜野湾市軍用地等地主会 事務局長  
宮城 武 普天間飛行場の跡地を考える若手の会  
佐藤 努 ねたてのまちベースミーティング 会長  
呉屋 勝広 ねたてのまちベースミーティング 副会長  
多和田 功 宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長  
立山 善宏 専門員(昭和株式会社)

#### 《事務局》

東江 信治 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長  
高良 夏美 宜野湾市基地政策部まち未来課  
青野、石井、崎山(昭和株式会社)

④式次第 : 1. 開会  
2. 令和2年度懇話会について  
3. 議題  
令和2年度の取組みについて  
4. 閉会

⑤配布資料 : ・令和2年度 第1回 普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第  
・普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会設置要綱及び名簿  
・資料①: 関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務【普天間飛行場】  
令和2年度の取組みについて

## ○意見概要

		上江洲教授が急遽欠席となったため、議題に対する意見メモを事前に頂き、議題に入る前に事務局からメモ内容の説明を行った。
		コロナ禍におけるオンライン会議への取組みについて
石原 (沖縄国際大学 名誉教授)	事務局	上江洲教授から提案のあったコロナ禍における各種取組みについて、事務局で Zoom を活用した懇話会の運営は可能か。
事務局	事務局	若手の会では7月から Zoom を活用して定例会を開催しており、ライブ配信で若手の会メンバーは視聴できる。同様の形で対応可能と考えている。
立山 (専門員)	事務局	パソコンやスマートフォンで設定を行う事で、Zoom でのオンライン会議は可能となる。設定に不安のある方については事務局で設定する事も可能である。
事務局	事務局	各人でパソコンやスマートフォンの設定が異なるため、簡単なマニュアルを作成し配布する事は可能である。マニュアルでは不安という方に対しては、事務局で設定する事も可能である。
		今年度の取組みの実施方針について
佐藤 (NBミーティング会長)	事務局	資料①の P1 について、目指すイメージの中で「まちづくりに関心ある地権者、市民」を増やす事は良い事であるが、「若手の会、NBミーティング」と「まちづくりに関心ある地権者、市民」との関係はどう考えているか。
事務局	事務局	若手の会、NB ミーティングが組織の強化を図りながら情報を発信する中で、例えばイベントやまち歩きなど対外的な活動を通して声掛けを行い、少しずつでも関係性を強めていければと考えている。
		有識者検討会議への発信内容について
佐藤 (NBミーティング会長)	事務局	若手の会、NB ミーティングの定例会で取りまとめた成果の発信が翌年度となっているのはなぜか。取りまとめた結果を翌年度に発信するのではなく、検討途中の段階をリアルタイムで発信する方が、跡地利用計画の計画内容に反映されやすいのではないかと考えている。
事務局	事務局	各組織で検討を進めている内容がまとまるまでには1年必要と考えている。取りまとめた結果を発信するため、有識者検討会議の開催時期を考慮して翌年度と想定した。

### 若手の会について

- 宮 城 若手の会への参加者を増やす取組みについて、地主会にお願いしたい。地主会の会合で配布している若手の会定例会議事要旨に、定例会参加者の居住している字名も記載していただけないか。各字の役員に参加状況を報告する事で、役員に危機感を持たせたい。
- ( 若 手 の 会 )
- 又 吉 議事要旨について、参加者氏名は消した形で配布している。
- ( 地 主 会 事 務 局 )
- 宮 城 氏名は消して頂いて構わないが、字毎の参加人数だけでも地主会の会合で報告頂きたい。
- ( 若 手 の 会 )
- 又 吉 字毎の参加人数を公表しても人数の増加には繋がらないのではないか。
- ( 地 主 会 会 長 )
- 宮 城 地主会が地料明細を送付する際に、若手の会の周知案内を同封してはどうか。あるいは、地料明細の案内文に、若手の会の活動案内を加筆してはどうか。
- ( 若 手 の 会 )
- 又 吉 送付する封筒についてはサイズが決まっており、また、発送スケジュールについても余裕がないため1枚追加する事は難しい。案内文への加筆については、地主会で要調整となる。
- ( 地 主 会 事 務 局 )

### 地権者意見交換会について

- 立 山 平日昼間の開催は良いと考える。開催するにあたっては、過去に実施した意見交換会の日程毎の参加人数を整理する事で、参加人数が多い日時、曜日傾向をある程度掴む事は可能ではないか。また、参加者を増やすためには地主会や若手の会からの呼びかけが必要である。
- ( 専 門 員 )
- 開催当日は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況の懸念もあるので、今回は小グループ形式での意見交換会ではなく、スクール形式で開催してもよいのではないか。(飛沫拡散防止のため)
- 宮 城 会場に人数制限を設けるなど、密にならない対策が必要である。最大何名の会場を想定しているのか。
- ( 若 手 の 会 )
- 立 山 会場の大きさにもよるため、何人という事は言えない。
- ( 専 門 員 )
- 事 務 局 現時点で具体的な人数を挙げる事は難しいが、ソーシャルディスタンスを

		考慮すると 50 人未満と考えている。開催する場合、工夫が必要である。仮に開催しない場合において、地権者から意見を頂くための有効な方法についてお考えがあれば伺いたい。
宮 (若手の会)	城	例えば事前に参加希望日時を回答頂くようにし、回答があった方に対しては参加者数が分散するよう事務局が調整する事で、密を避けた開催ができるのではないかと考えている。
事 務	局	回答がある方はさほど多くないと考えられるため、事務局から直接電話で調整するなどのやり取りは可能と考える。検討したい。
又 (地主会会長)	吉	高齢者は新型コロナウイルス感染症を恐れている。開催しない場合の地権者への説明方法など、現時点から検討しておく必要がある。
事 務	局	郵送で若手の会の検討結果を発送し、アンケートを同封して返信して頂くなどの方法は考えているが、今後の検討事項である。
		NB ミーティングについて
佐 (NBミーティング会長)	藤	今年度の活動目標について、メンバーの増員を図るとあるが、具体的にどのような取組みを想定しているのか。例えば宜野湾市の LINE は登録者数 2,700 人以上と多いため、NB ミーティングの取組み内容を随時発信する事はできないか。市民と直接対話して参加を促すなど従来の方法だけでなく、ICT の活用も考えてはどうか。 また、定例会に参加しなくても気軽に意見を発信する方法として、福島県郡山市の「まちづくりネットモニター」の取組みが参考になる。まちづくりに興味のある方がモニターとして登録されているため、まちづくりに関する意見を募集すると回答率が 90%以上という状況である。このような取組みを宜野湾市においても作り上げる事はできないかと考えている。
事 務	局	普天間飛行場跡地の意向醸成活動に向けた市の取組みとして、例えば NB ミーティングの SNS アカウント等を、宜野湾市の SNS でシェアする事は可能と考えられるが、NB ミーティングの取組み内容を宜野湾市の SNS から直接発信する事は難しい。
佐 (NBミーティング会長)	藤	信頼度を考えると、市からの配信が良いと考える。
多 和 田 (宜野湾市基地政策部次長 兼まち未来課長)	田	発信のきっかけとしては、宜野湾市から発信する事が信頼度の面からも望ましいが、NB ミーティングだけではなく他の組織からも同様の対応を求められた場合を考えると、直接発信は難しい。

佐藤 (NBミーティング会長)	<p>有識者検討会議の内容を市民に分かりやすく伝えていく必要があると考える。NB ミーティングの取組み内容は会員の考えに委ねており、そのような取組みをしたいという意見が挙がらないため有識者検討会議の内容を易しく説明する取組みは行っていないが、できれば行ったほうが良いと考えている。</p> <p>有識者検討会議で進められている跡地利用計画策定までの流れと、NB ミーティングとの流れが徐々に離れてしまう懸念がある。</p> <p>有識者検討会議の内容は専門的で難しいため、市民が分かるように易しく説明する事が確実な合意形成に繋がる。</p> <p>NB ミーティングは、有識者検討会議で進められている検討内容を分かりやすく、部分的にでもよいので市民に伝える事が重要な役割と考える。</p>
多和田 (宜野湾市基地政策部次長 兼まち未来課長)	<p>跡地利用計画策定調査業務の内容については、若手の会及びNB ミーティングに対して説明を行っているが、平易な説明で一般の地権者、市民に対して伝える事は重要であるが、中々難しいという課題もある。</p>
佐藤 (NBミーティング会長)	<p>若手の会は、定例会で検討した意見がまとめられていて素晴らしいと思う。地元ならではの意見も出ている。会としての考えをまとめるために、専門的な会議の内容を少しでも理解しようと努力されている。NB ミーティングについても若手の会と同様、少しでも良いので跡地利用計画との接点がないと、目標である合意形成から確実に離れていくと考える。</p>
<p>若手の会とNB ミーティングの意見交換会について</p>	
佐藤 (NBミーティング会長)	<p>若手の会、NB ミーティングの取組みを進めていく中で、活動に興味のある市民の層が拡大する可能性があるため、提案した意見は反映して頂きたいと考える。</p> <p>NB ミーティングと若手の会との意見交換会について以前提案したが、本日の資料に載っていないのはなぜか。</p>
事務局	<p>若手の会に対して開催するかどうか確認中であるため、記載していない。</p>
宮城 (若手の会)	<p>7月の若手の会定例会で事務局からその話があったが、皆あまり興味を示していなかった。あまり NB ミーティングとの意見交換に関心がないように感じた。</p>
石原 (沖縄国際大学 名誉教授)	<p>関心がない原因は何なのか。</p>
宮城 (若手の会)	<p>若手の会は発足して 18 年になり、定例会が活動の基本となっているが定例会参加者の人数が減っている状況である。参加人数が平均7～8名の中、</p>

NB ミーティングとの意見交換会の場を持つのは難しいと感じる。

#### 市内小中高等学校への出前講座について

佐藤 藤  
(NBミーティング会長)

開催回数は1回のみか。

事務局

日程等調整して、各校まとめて1回を想定している。オンラインでの開催などICTを活用した対応ができるのではと考えているが、学校側との調整はこれからである。

佐藤 藤  
(NBミーティング会長)

プロモーションビデオ(PV)を制作して小中高等学校に配布するとあるが、小学生と高校生では理解レベルが異なるため、話す内容や言葉など工夫して数種類作成する必要があるのではないか。

事務局

PVの制作は1種類であり、中学生向けの内容を想定している。言葉の表現を工夫し、小学生でも分かるようなPVを制作する予定である。

#### 情報誌について

宮城  
(若手の会)

地権者支援情報誌「ふるさと」について、どの程度の人数が内容をしっかり読んでいるのか気になる。

立山  
(専門員)

過去に地権者アンケートを実施した際、約7割の方が「ふるさと」を読んでいると回答があったため、情報発信の手段としては有効である。しかし、地権者や市民がどのような情報提供を望んでいるのかが重要となる。新型コロナウイルス感染症の影響もあるため、情報誌を通して意見を収集する工夫も今後必要になると考える。

事務局

今年度、「ふるさと」及び「まち未来だより」については、紙面にQRコードを掲載して読みやすさや興味ある分野についてなどの簡単なアンケートを行う予定である。

#### まちづくり講座について

宮城  
(若手の会)

まちづくり講座について、現テーマでも良いと思うが、哲学を講座テーマとしても良いのではないか。まちづくりとは直接関係ないが、ゆくゆくは自身の生活や生き方など巡り巡ってくるものである。

事務局

まちづくり講座の内容については、事務局の方で今後検討したい。

その他

- 佐藤 (NBミーティング会長) 懇話会の場で提案したい事項がある場合、議題以外の内容について提案を行う事は可能か。可能な場合、提案した事項の実施可否について、最終的な判断は誰が行うのか。
- 事務局 取組み内容について、基本は本日ご説明させて頂いた内容で進めていきたい。その中で、取組みの方法やイベント内容の提案など色々なご意見を頂戴できればと考えている。提案頂いた内容は、若手の会及び NB ミーティングに関わる事であれば両組織に報告し、それぞれの会で検討を進めて頂く事になる。予算面の都合等もあるため、最終的な判断は事務局が行う。
- 又吉 (地主会会長) 各種会合の開催については、コロナ禍の中で現実に厳しい状況である事を踏まえて進めて頂きたい。  
地主会の役員の多くはスマートフォンを所有していないため、SNSでの情報発信等については内容を確認する事ができず、返信も難しい。  
保健所から自治会に対し、「10名以上が集まって会議を開催してはいけない」と指導があった。会合の場を持つ場合においても、検温及び氏名の記入を行わないと開催できない。  
ソーシャルディスタンスを守り、換気を行うなど対策を講じたとしても市民の参加を得る事は難しいと考える。事務局としてどう対応を考えているのか。
- 事務局 事務局としても認識している。懸念事項としては、仮に地権者意見交換会を開催しない場合はどのように効果的な意見の集約ができるのかという点である。また、先進地視察会に関しては、Zoomを活用した視察候補地の講師とオンラインでの勉強会を設けるなど、先進地事例の知識習得を図る事は可能であると考えている。引き続き検討していきたい。
- 又吉 (地主会会長) 保健所から、短時間で会議は終わらせるように指導があった。あいさつや議題以外の項目は割愛するなど、短時間で会議を終わらせるよう緊張感を持っていただきたい。
- 事務局 承知した。

### 3) 第2回実施概要及び議事要旨

#### ○実施概要

①日 時 : 令和3年3月3日(水) 18:00~19:15

②会 場 : 宜野湾市役所別館3階第一会議室

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授【会長】  
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 教授【副会長】  
又吉 信一 宜野湾市軍用地等地主会 会長  
又吉 真由美 宜野湾市軍用地等地主会 事務局長  
大川 正彦 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 会長  
呉屋 力 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 副会長  
宮城 武 普天間飛行場の跡地を考える若手の会  
佐藤 努 ねたてのまちベースミーティング 会長  
呉屋 勝広 ねたてのまちベースミーティング 副会長  
多和田 功 宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長  
立山 善宏 専門員(昭和株式会社)

#### 《事務局》

東江 信治 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長  
高良 夏美 宜野湾市基地政策部まち未来課  
青野、石井、崎山(昭和株式会社)

④式次第 : 1. 開会  
2. 報告  
第1回懇話会の概要  
3. 議題  
令和2年度活動報告と今後の取組みに向けて  
4. 閉会

⑤配布資料 : ・令和2年度 第2回 普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第  
・資料①: 第1回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会議事録  
・資料②: 令和2年度活動報告  
・資料③: 今年度の課題と今後の取組みに向けて  
・参考資料①: 各活動報告  
・参考資料②: 視察概要

## ○意見概要

若手の会の課題と今後の取組みについて	
宮 城 (若手の会)	参加者が少ない中、分科化自体できないと考える。 また、次年度は若手の会発足 20 周年であるため、若手の会既存メンバーの掘り起し、新たなメンバーの参加の期間として一年かけて取り組んでいきたいと考えている。
石 原 (沖縄国際大学 名誉教授)	本日の新聞記事に、1995 年に普天間高等学校の生徒が制作した普天間飛行場跡地利用の大型模型の引取り先がないという記事が掲載されていた。この方々は当時、情熱を込めて模型を制作したと考えられる。また、模型の制作に携わった方々の中には、地権者の子息や宜野湾市民もいると考えられることから、当時の担任と連絡を取り、新メンバーの獲得に繋げることが良いのではないかと検討いただければと考える。
事 務 局	次年度以降、当時の担任への声掛けを含め検討していければと考える。
大 川 (若手の会会長)	この記事には、行き場がなくなり廃棄の危機と書かれており、私自身もショックであった。そのため私も先程の意見と同感であり、若手の会新規メンバー獲得の手段として考えたい。 模型の置き場については、行政または地主会に検討いただき、無理ならば私の家の庭にでも置いておきたいと考えている。
立 山 (専門員)	これまでの意見に私も賛成である。若手の会発足 20 周年を機に体制を立て直すことが良いと考えている。三役が一度に世代交代を行うと、次の世代への引継ぎが上手くいかないと考えられるため、2 年程時間をかけて新体制に移行した方が良いのではないかと考える。
石 原 (沖縄国際大学 名誉教授)	現三役の交代がなされたとしても、若手の会メンバーから外れるのではなく顧問として若手の会に残り、知識やノウハウを次の世代に引き継いでいただきたい。
事 務 局	世代交代の話については、次年度以降も継続して若手の会で議論いただきたいと考える。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	定例会への参加人数を増やすという点について、先程から話題に上がっている模型制作を行った若者達の「その後を追う」事を若手の会発足 20 周年の企画として新規メンバーの獲得を進めると同時に、活動から遠のいた既存メンバーの足を向けやすくする企画として位置づける事は、次年度で

又 吉  
(地主会会長)

きる取組みではないかと感じた。

なぜ宜野湾市が模型を受け取る事ができなかったのか、残念である。  
若手の会の新規メンバー獲得について、模型制作に関わった方々から人材獲得に繋げていくという話があったが、現若手の会のメンバー規程には、各支部からの推薦により構成するという条件があるため、規程を変更する必要がある。誰でもいい訳ではない。地権者なのか市内在住なのかも含め、確認も必要である。

多 和 田  
(宜野湾市基地政策部次長  
兼まち未来課長)

模型の経緯について説明したい。模型は現在首里高校にあるが、校舎改築に伴い置き場がなくなるため、市の施設に常設展示できないかという依頼が2月中旬頃にあり、市としても関係部署や関係機関に打診した上で短期間の展示ならば可能と回答した所、検討すると先方から返事があり、本日の新聞記事のような結果となっている。

#### 地権者意見交換会及び地権者意見交換会に代わるアンケート調査について

宮 城  
(若手の会)

これまで対話形式による意見交換会を開催した時は、4日間で延べ100名程度の参加という状況であった。それを考えると今回は回収数489件、回収率13.3%と低いようにも見えるが、約500名の地権者が意見を寄せた事は大きいと考えられる。

ただ、対話形式の方が、より深く意見を伺える。細かな意見を書かれている方もいらっしゃると思うため、そういった細かな意見も「ふるさと」に掲載いただきたい。

事 務 局

確かに対面の方が細かな話も伺えるため、今いただいたご意見を踏まえて次年度以降どのように進めていけば良いか検討していきたい。

佐 藤  
(NBミーティング会長)

「アンケートに何を求めるのか」ではないか。跡地利用計画に対する意見なのか、意向醸成活動の進め方に対する意見なのか、跡地利用計画に興味を持ち続けてもらうためのアンケートなのか、明確にした方が答えやすい。次に、分析が単純集計のみである事が気になる。クロス集計でより分析を深める方が次の展開に繋がる。例えば「さらに検討が必要と思った点」について、「みどりの空間イメージ」という選択肢だけが7.6%と少ない回答率であった事から、内容が理解されていない、あるいは気に留めていないという事が考えられる。

「良いと思った点」、「さらに検討が必要と思った点」、相反する事項を尋ねているため、多い回答と少ない回答がそれぞれ対比されて表れるはずだが、そのような傾向になっていない事から、内容が理解されていないのではないかと、深く分析した方が良いと考える。

事務局	<p>今回のアンケートは、いかに地権者が回答しやすくするかを考えて作成し、属性等も敢えて尋ねなかった経緯がある。今いただいたご意見については、今後地権者意見交換会においてアンケート調査を併用して実施する場合の留意点として、参考とさせていただく。</p> <p>また、県外在住者のためのオンライン会議については、数百名の県外の地権者が一斉にオンライン会議に参加する事も可能性として考えられる事から、実施する事は難しいのではないかと考えている。</p>
宮城 (若手の会)	<p>アンケートの設問の中に、今後の地権者意見交換会を開催する会場に関する設問があり、私は小中学校の体育館と記入した。小中学校は市立のため借りやすいのではないかと考えているがいかがか。</p>
多和田 (宜野湾市基地政策部次長 兼まち未来課長)	<p>以前確認した所、学校に関係ある取組み等に会場を提供するという回答であった。しかし、その地域内で人を集めたい時に、学校以外に集まる事のできる場所がない場合は貸出も可能との事であった。</p>
上江洲 (沖縄国際大学教授)	<p>アンケートに回答して返送するというモチベーションの維持が難しいと考えられる。そのため回収日を設けて会場を設営し、徒歩圏内で提出できるようにしておき、その場で記入できるスペースを設けておくと回収率も上がると考えられる。NB ミーティングの若者を巻き込む取組みとも関連するが、そのような場所に若者のボランティアを配置できるならば、若者の関心を引く事ができるのではないかと感じた。</p> <p>次に、県外在住者の対応については、web フォームがあると意見を提出しやすいと考える。大人数参加の web 意見交換会については、ZOOM ミーティングではなく、ZOOM ウェビナーを活用すれば大人数の対応も可能と考える。</p>
NB ミーティングの課題と今後の取組みについて	
佐藤 (NBミーティング会長)	<p>私は、参加人数だけ増やせば良いのではなく、活動自体を充実させなければ意味がないと考えている。以前メンバーに、NB ミーティング参加のモチベーションは何かと尋ねた事があったが、「役に立つ」、「新たな知識を得る」、「計画に反映される」という「個人としての達成感」と「会としての達成感」が重要であるという事であった。いかにモチベーションを維持するかという事に対するフォローが必要と考えている。</p> <p>メンバーは非常に積極的に活動していると私は考えている。そこで、行政側に対する協力依頼として、LINE を活用した広報、有識者検討会議資料の共有や情報提供の制限解除、まちあるき実施地区へのフィードバック、支援内容の柔軟化等をお願いしたい。</p> <p>次に、昨年度の地域からの意見が跡地利用計画の検討に反映されているか</p>

どうか確認したが、ほとんど反映されていない状況である。地域の意見を跡地利用計画の検討サイドに伝えると共に、計画の検討状況を地域に伝える事が NB ミーティングの存続意義であるが、それが反映されていない。また、普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書内の「合意形成や情報発信に関する取組み」の中に、NB ミーティングの活動が記載されておらず、残念である。このような点は、会のモチベーションに非常に影響するものと考えている。

次年度の新たな取組みの可能性として、琉球大学の学生が最近定例会に参加するようになり、その学生経由で、大学の講義に参加できる可能性がでてきている。県や市の懸念事項として、若者の関心が非常に低い事であると以前伺った記憶があるが、琉球大学との連携が1つの切り口になると考えている。

最後に、これまでにまち歩きを実施した地区がどのような情報に興味があるのか自治会長に伺った所、地区に隣接する部分の跡地利用計画に興味があるとの回答であった。情報提供の手段については、ポスターやチラシ、説明会など各地区で異なっており、次年度に何か取組みができるのではないかと考えている。「計画内容を知らない」から「各地区の自治会長や主要な方々への計画内容の浸透」は、NB ミーティングの取組みの大きなジャンプに繋がるものと考えている。

事務局 資料提供の件については、会議自体が非公開のため公開は難しいとお伝えしている。議論した結果については、報告書として取りまとめて公開している。

事務局 有識者検討会議における NB ミーティングの意見の取扱い方については、会としての考えを取りまとめて発信していくことで跡地利用計画に反映できるのではないかと考えている。

佐藤 (NBミーティング会長) NB ミーティングの大きな役割の1つが、普天間飛行場周辺地域の方々の意見を伝える事であると考えている。NB ミーティングとしての考えではなく、市民の考えを跡地利用計画検討側に伝える事が重要である。伝えた意見に対してフィードバックがなければ全く伝わっていないのと同じである。フィードバックがあれば、地域住民の立場からすると意見が届いている事が分かるが、それがないと NB ミーティングに意見を伝えたが跡地利用計画検討側には伝わっていないという事になりかねない。どう伝えるか、跡地利用計画検討側がどう受け止めるかが重要な点と考える。

事務局 地域からの意見についても情報共有を行っている。神山地域はシンボル道路の位置に関する意見が挙がっており、有識者検討会議の中でも共有して

又 吉  
(地主会会長)

いる。現状として、いただいた意見のフィードバックが中々返せていない状況であるが、今後明確なフィードバックができるよう検討していきたい。

琉球大学と連携した取組みや、学生で興味のある方を先導役として受け入れたり、小中高等学校への出前講座等、時間をかけて若い世代を人材育成する事が合意形成の一番の近道である。すぐ意識を変えるのは難しいが、地主会も行政も一緒になって人材育成を行う事で進めているため、本懇話会の中でも共通認識としておいていただきたいと考える。

上 江 洲  
(沖縄国際大学教授)

次年度も大学は恐らくオンラインを併用する事になるため、NB ミーティングとしてはそれに対応可能なタイアップ企画を検討いただければと思う。

琉球大学との連携については、90分の講義を2コマという話であったが、その中でコンパクトに完結するようなプログラムを構築する事ができれば、琉球大学だけではなく他大学でも活用できるツールとなる。

また、過去にその講義に参加した学生を他大学で開催する同一講座と一緒に参加させる事で、他大学との交流に繋がる。他大学交流の経験は、学生の評価対象となるため、学生のインセンティブに繋がると思った。

石 原  
(沖縄国際大学 名誉教授)

若手の会や NB ミーティングの皆さんが、関心ある方を説得し一本釣りでメンバー獲得に繋げる必要があると考える。

多 和 田  
(宜野湾市基地政策部次長  
兼まち未来課長)

NB ミーティングの活動に対する対応として、行政としても改善できる点がないか検討させていただきたい。

#### 次年度の主な取組みについて (案)

立 山  
(専門員)

「プロモーションビデオを活用した出前講座の開催」について、10分程度でコンパクトにまとまっており、跡地利用計画が具体化しづらい状況下においては非常に良い PV となっている。次年度以降、本 PV を地権者意見交換会やまちづくり講座など各種会合の場で放映したり、市ホームページにもアップしても良いのではと考える。

事 務 局

PV の活用方法については、今のご意見を受け事務局として次年度検討させていただきたい。

#### その他

多 和 田  
(宜野湾市基地政策部次長  
兼まち未来課長)

県市共同調査で跡地利用計画を検討しているが、返還時期が未定のため、どのような施設が誘致されるのかといった地権者や市民が一番興味のある部分について応えきれていない。

事 務 局

そのため今後は、魅力ある跡地利用計画を伝えていけるように、具体的な施設など提示できるのかどうか区市共同調査の中でも検討していきたい。そういった事がメンバー増員や参加者増に繋がっていくものと考えているので、ご理解をお願いしたい。

今回をもって、懇話会会員の任期終了となる。今後も懇話会を継続して開催する場合、改めて事務局からお声掛けさせていただく事となるが、その際にはぜひともご協力いただきたい。

#### 4) 「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」設置要綱

##### (設置)

第1条 普天間飛行場跡地利用に係る地権者等関係者の合意形成活動を確実に実施するために、地権者等関係者のそれぞれの活動内容及び方向性について十分な協議調整を図る事に資するために、普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

##### (協議事項)

第2条 懇話会での協議事項は、次のとおりとする。

- (1) 合意形成活動推進上の問題課題の整理に関する事。
- (2) 合意形成活動の仕組みと組織づくりに関する事。
- (3) まちづくり手法の研究に関する事。

##### (組織)

第3条 懇話会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 宜野湾市軍用地等地主会
- (3) 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
- (4) ねたてのまちベースミーティング
- (5) 市の職員
- (6) 専門員（まちづくり実務者）

##### (任期)

第4条 会員の任期は、3年とする。ただし、再任は妨げない。

2 会員が欠けた場合における補欠会員の任期は、前任者の残任期間とする。

##### (役員)

第5条 懇話会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
  - (2) 副会長 1名
- 2 役員は、会員の互選により定める。
- 3 役員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 会長は、懇話会の会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

##### (会議)

第6条 懇話会の会議は、会長が必要に応じて召集する。

2 団体会員の会議への出席者数は、議題に応じ必要人数とする。

3 会長が必要であると認めるときは、会員以外の関係者の出席を求め、意見を聞く事ができる。

##### (事務局)

第7条 懇話会の事務局は、宜野湾市基地政策部まち未来課に置き、その事務を処理する。

##### (補則)

第8条 前条までに規定するものの他、懇話会の運営に関して必要な事項は懇話会で決定する。

##### 附則

この要綱は平成27年1月27日から施行する。

##### 附則（追加）

1 この要綱は平成30年8月8日から施行する。

## 5) 取組み成果と今後の課題

### 【取組み成果】

#### ●次年度の取組みの方向性について

以下の内容に関する取組みの方向性や考え方について意見を伺う事ができ、若手の会及び NB ミーティングへのフィードバックを行った。

- ・若手の会の会員掘り起しの方法
- ・若手の会及び NB ミーティングの活動や考え方を次世代に継承していくための方法
- ・NB ミーティングと市民の関わり方
- ・地権者アンケートの回収率向上の方法
- ・県外在住地権者の意見把握の方法

### 【今後の課題】

#### ●継続した議論の必要性

- ・今後も継続して懇話会を開催し、合意形成を進めていくにあたっての方向性等について議論を進めていく必要がある。